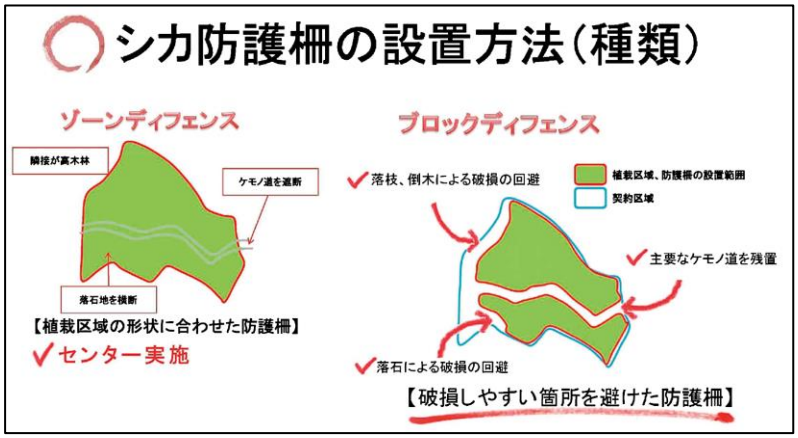
ニホンジカ被害対策に関する業務検討会に参加して

［**愛知所**］9月20日、国立研究開発法人森林研究・整備機構森林整備センター中部整備局主催のニホンジカ被害対策に関する業務検討会が静岡市において開催され、愛知県、各県（岐阜県・三重県・愛知県・静岡県）林業事業体、愛知森林管理事務所から総勢約40名が参加しました。

午前中は室内において、森林整備センターにおいて実施した「ケモノ道を残置するシカ防護柵（ブロックディフェンス）の概要」と、森林総合研究所研究員から「シカ被害対策の現状と対策」についての講義を受講しました。午後からは、現地においてシカ防護柵（ブロックディフェンス）の視察を行いました。

シカ防護柵については、現在は区域全体を囲む方法であるゾーンディフェンスが主流となっていますが、今回紹介されたブロックディフェンスは、①主要なケモノ道を存置、②落石等により破損しやすい箇所を避けて設置できる方法です。

ゾーンディフェンスとのコスト比較では設置時には割高となるが、メンテナンス費用も含めた試算では安価となるとの報告がありました。



また、これまで防護柵破損の要因となっていた「ケモノ道の横断」、「網への潜り込み・乗っかり」なども「ケモノ道」を設置したことで被害が回避されたという報告や、残置したケモノ道を利用したワナによる捕獲との組み合わせも有効との報告もありました。

現在、ニホンジカ被害対策は農林業にとって喫緊の課題となっていますが、地域ごとの対策には限界があり、国・県・市町村等が連携し垣根を越えた広域的な対策が必要となっています。

今後もこのような機会を通じた情報交換等を行い、現地にマッチした防護対策と個体数管理のあり方を地域と連携し進めていきたいと考えています。

参加者全員で記念写真

林野庁　中部森林管理局
〒380-8575　長野県長野市大字栗田 715 番地 5
TEL　050-3160-6508

国民の森林・国有林